

サロベツの魅力 みつけた。

サロベツ
エコモ-
プロジェクト
2009
活動報告集



『サロベツ・エコモ-プロジェクト』は、サロベツの自然や文化を楽しむ活動の環を広げていきます。
そして多くの人にサロベツの魅力を伝えていきます。

<http://sarobetsu-saisei.jp/ecomomo/>

サロベツの魅力
をご紹介します。

も く じ

04 サロベツ・エコモ－・プロジェクトって何ですか？

06 サロベツを楽しむ活動 2009 報告

- | | |
|--------------------------------|--|
| 06 チーム☆エコモ～太 | みさたろとゆかいな仲間たち |
| 08 押忍！我ら豊富町『カレー部』 | みさたろとゆかいな仲間たち |
| 10 フットパスルートを作ろう歩こう | NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク |
| 12 サロベツ自然語講座 | NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク |
| 14 サロベツの昔話を聞こう！ | NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク |
| 16 サロベツ人気 UP 作戦 | オバパワー倶楽部 |
| 18 サハリンの風に乗れ！ | 稚内自然保護官事務所 |
| 20 サロベツ動物折り紙博物館 | かせいじん |
| 22 上サロベツの自然と農業を学ぶパネル展 | 稚内開発建設部農業開発課 |
| 24 上サロベツ農業情報マップ | 稚内開発建設部農業開発課 |
| 26 サロベツに集まり自由に語り合いましょう | サロベツ学会 |
| 28 サロベツ・プチ自然観察会 | 稚内自然保護官事務所 |
| 30 坂の下自然観察会 | 稚内自然保護官事務所 |
| 32 サロベツ自然語講座
& 宗谷支庁外来種防除研修会 | NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク
稚内自然保護官事務所 宗谷支庁環境生活課 |
| 34 サロベツサブレンジャー | 北海道大学植物同好会 |
| 36 木道ナイトハイク | 稚内自然保護官事務所 |
| 38 秋の渡り鳥観察会 | 稚内自然保護官事務所 日本野鳥の会道北支部 |
| 40 空から眺めるサロベツの自然 | NPO 法人 EnVision 環境保全事務所 |

42 サロベツの活動情報マップ

上サロベツ自然再生協議会 再生普及部会

座長 辻井 達一



酪農と結びつきの強いサロベツ
湿原と酪農のおりあいを
どうやってみつけていくか
課題でありおもしろさである。

サロベツ・エコモ－・プロジェクトは、サロベツ湿原と
その周辺を含めて、人と自然のさまざまな“かたち”と
“うごき”を考えてみよう、とするものです。

公募で決まったその名“エコモ－”は、正にエコロジ
のエコと、この地のもっとも主要な人の営みである酪農の
牛の鳴き声のモ－から成っています。

自然再生普及部会は、技術部会と共に上サロベツ自然再
生協議会を構成するものですから、協議会の行っている自
然再生事業の普及啓発を行うのはもちろんですが、国内有
数の特徴的な高層湿原を中心とするサロベツ湿原の保全と
基幹産業としての農業との共生についての、さまざまなア
イデアを考えることも、その役割としています。

この目的のためにプロジェクトを公募し、2009年度
には合計18のプロジェクトが選ばれて実施されました。
ここにまとめられたのがそのレポートです。

どうぞお読み下さってご批評下さい。
そして、もし、これらの活動がご参考になればうれしい
限ります。

サロベツ・エコモー・プロジェクトって何ですか？



サロベツ原野

北海道北部に位置するサロベツ原野は、利尻礼文サロベツ国立公園に指定され、利尻山を背景に多く花々が咲き乱れる広大な景観が特徴です。また低地における高層湿原として日本最大の規模をほこり、その周囲を取り巻くようにサロベツの語源となったサロベツ川（「サロベツ」はアイヌ語で湿原を流れる川の意味）が流れています。海岸線には数千年の時をかけて成立した森林が南北に 25km 以上も連なり、原始的な森の中には大小 100 余りの湖沼や湿原が点在し、野生動物の宝庫となっています。サロベツ原野の恵まれた自然環境は渡り鳥の中継地としても重要で、平成 17 年にはラムサール条約に登録されました。

注 1 利尻礼文サロベツ国立公園：昭和 49 年、日本で 27 番目の国立公園に指定された。
 注 2 高層湿原：水分と養分のほとんどが雨や雪などによって供給される湿原。貧栄養な環境でも育つミズゴケを主体とし、未分解の植物が厚く積み重なっているのが特徴。
 注 3 ラムサール条約：正式名は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。湿地の保全などを目的に、イランのラムサールで最初に締結された。サロベツ原野は世界で 1555 番目の登録地。



上サロベツ自然再生事業

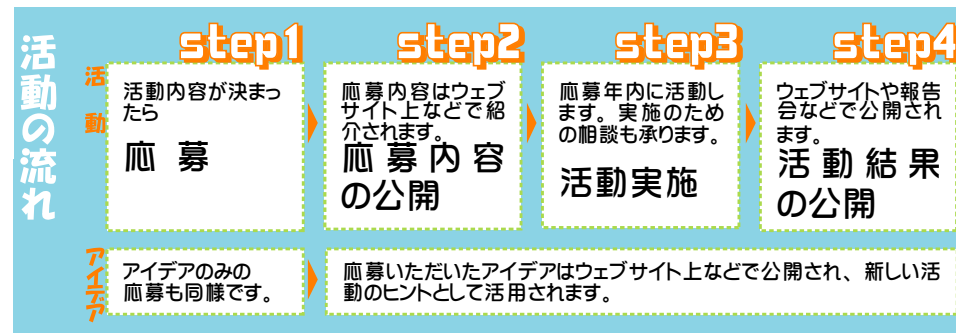
サロベツ原野は、戦後の大規模開発の影響などからこの半世紀で湿原面積が大幅に減少し、現在も乾燥化が進んでいます。こうした状況を踏まえ、平成 16 年から上サロベツ自然再生協議会が設立され、行政と民間とが一体となり湿原を復元・保全する活動が始まっています。湿原と酪農業の共生を図り、この素晴らしい財産を次世代に引き継いでいくことが大きな目標です。



サロベツ・エコモー・プロジェクト

『自然再生』を知るきっかけとなるように「サロベツ・エコモー・プロジェクト」が誕生しました。自然再生の取り組みや自然再生がおこなわれているサロベツをもっと身近に感じてもらいたい、というのがこのプロジェクトのねらいです。

このプロジェクトに参加する活動は、『自然』の中での活動に限られません。「サロベツで行っている活動」「サロベツにちなんだ活動」であればOKです。例えば、サロベツ湿原にはどんな草花があるのか知ってもらう「自然観察会」もそのひとつです。もっと身近なところでは「サロベツ産の食材を使った料理」もサロベツの魅力を伝える方法です。



エコロジー (ecology) のエコ (eco) と、モー (うし) を掛け合わせた造語です。
 『エコ (eco) + モー (うし) = 自然と農業の共生』
 そんな意味が込められています。

サロベツを楽しむ、
 サロベツの魅力を伝える、
 そんなあなたの活動が
 サロベツ・エコモー・プロジェクト
 です。

サロベツ・エコモー・プロジェクトは、上サロベツ自然再生協議会普及活動支援ワーキンググループが運営しています。ワーキンググループは個人、行政 NPO などで構成されています。

知ることへの入口



Project No. 1

チーム☆エコモ〜太

みさたろとゆかいな仲間たち



プロジェクトのマスコットキャラクター、エコモ〜太を使ったグッズの開発と使用することで活動の周知を図りました。

3月にエコモ〜太Tシャツを製作。その後メンバーに配布し、WG会議やサロベツ関係の活動の際にエコモ〜太Tシャツを着用し、サロベツ・エコモ〜プロジェクトを周知しました。また・知人の SNS 内の日記や HP などにてエコモ〜太を取り上げてもらいました。

『サロベツ』を話題にしたり、取り組みを進めるなかで、身近な人にサロベツについて興味を持ってもらうことが出来たように思います。

また誰でも参加できるような内容で、楽しみながら活動することが出来、知人にもかかわってもらうことが出来たことが成果です。

Data

日時：2009年3月～現在

場所：サロベツに関する活動の際に実施

Tシャツの 稚内市 8 枚、豊富町 4 枚、幌延町 1 枚

配布先：利尻島 2 枚、旭川市 1 枚、札幌市 6 枚

仙台市 1 枚、東京都 4 枚

Tシャツにプリント

子ども達も
興味深々

活動時はいつも着用

楽しいだけでなく おいしい発見。



カレーをテーマに行った活動です。この活動によってカレーのレシピだけではなく、サロベツにちなんだ食材の洗い出しもできました。

調理を行う場所は個人宅となっていたので、広く参加者を求める場合の会場の確保が今後の課題です。

今後は商品ベースになるものも目指し、一般のモニターや出来たレシピの活用方法も検討し、新年度も継続していききたいと思います。

Project No. 2 押忍！我ら豊富町 『カレー部』！

みさたろとゆかいな仲間たち

第一弾
サロベツの海カレー

第二弾
渡りモリモリパワーカレー
完成して味見中の様子



レシピ

その1～サロベツの海カレー～

パプリカはエゾカンゾウの形にカット。ホッキは殻からはずし、下ゆでする。ゆで汁はカレーに使用。鮭はムニエルにして盛り付け時にご飯に乗せる。ウインナーについてはゆでてカレーにトッピングを考えたが、他の食材とのバランスがよくなく、付けあわせとした。

材 料 * 鮭 * ホッキ * 人参 * パプリカ（イエロー） * 玉ねぎ
* じゃがいも * トナカイウインナー * ルウベース（市販のルウ）

その2 ～渡りモリモリパワーカレー～

テーマを「オオヒシクイ」とし、オオヒシクイの渡りルートからロシア（繁殖地）サロベツ（中継地）琵琶湖（越冬地）の3箇所より、パワー漲る赤い具材を集めてカレーを作成。

材 料 * 鮭（サロベツ） * テーブルビート（ロシア）→今回は缶詰を使用 * 赤こんにゃく（琵琶湖・近江八幡） * 玉ねぎ * じゃがいも
* 人参 * ルウベース（イエローカレー）

その3 ～クリーミーカレー鍋～

冬に向かう季節の中で、あったまるカレー鍋を作成。豆腐および大豆製品はサロベツ産のものを使用。ラムサールつながりでサロマもしくは厚岸の牡蠣を使用する。

材 料 * 木綿豆腐（宮本豆腐） * 油揚げ（同） * キャベツ * 牡蠣（ラムサールつながりのサロマ産） * 豆乳（市販のものを） * だし汁
* カレー粉

Data

日 時：	第1回（豊富町）8/19	参加者 4名
（場所）：	第2回（幌延町）8/30	参加者 5名
参加者：	第3回（豊富町）9/13	参加者 4名
	第4回（稚内市）9/26	参加者 8名
	第5回（稚内市）11/9	参加者 8名

それはどこまでも続く 発見とよろこびの径。



既存のサロベツ地域のフットパスルートを楽しみながら歩き、その上で、さらに良いものがないかどうかアイデアを出し合おうということではじめました。

今年度は、地域資源を掘り起こし、将来的にそれらを繋ぐための下地作りとして、豊富町発祥の地である兜沼において、歴史・文化を探訪することをテーマに歩きました。

町の歴史的遺産である郷土資料館の建物（旧梅村邸）の見学や、豊富町郷土史研究会の方からのお話は、地元の方も普段経験のない機会だったことから、有意義な活動になったと思います。

今後同様の形で様々な地区と関わり、それら「中継地」をつないだ魅力的なフットパスルートへと発展させることを目指します。

Project No.3

フットパスルートを作ろう歩こう

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク



豊富町発祥の碑

兜沼の畔を歩く
参加者たち

線路沿いも魅力的

Data

日 時： 9月26日（土）
10月27日（火）
11月26日（木）

場 所： 兜沼公園周辺～兜沼郷土資料館（旧梅村邸）
豊富温泉ふれあーセンター

参加者：19名＋スタッフ1名

この湿原の声、 あなたにも聞こえますか。

Project No. 4 サロベツ自然語講座

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク



7月11日
『湿原ってこんなところ』

8月8日
『図鑑の使い方を
マスターしよう』

9月26日
『サロベツ原野の
渡り鳥たち』

10月17日
『サロベツ原野の
希少種・外来種』

11月14日
『サロベツ検定』

一般の方を対象に、新たなサロベツの魅力に触れ、より深く楽しめる内容の講座を企画しました。

内容は国立公園についての講義、図鑑に関する講義と花を検索する練習、オオヒシクイ（渡り鳥）の観察、サロベツ周辺の希少種や、外来生物についての講義と観察、そして最後にはサロベツに関する検定試験を行いました。

講座の受講者は回を重ねるごとに少しずつ一般の方が増え、成果を感じることができました。

しかし地元からの参加が少ないのが依然として課題です。検定についても、周知が不十分だったことや、魅力が足りなかったことで受検者数が少なく残念でした。来年度はより多くの人に受けてもらうため、早い時期からの運営準備・PRに力を入れていきたいと考えています。

Data

日 時：7～11月の土曜日
9:30～12:00（月1回・計5回）
場 所：豊富ビジターセンター
（サロベツ原生花園自然教室）など
参加者：延べ41名

図鑑を見ながら
サロベツを見る

オリエンテーション

鳥の様子を観察

Project No. 5

サロベツの
昔話を聞こう！

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク



伝えたい
心に残る風景。



泥炭博士からお話を伺う

町の生き字引のお話と歌

完成したDVD

上映に見入る
人たち

サロベツ原野の開拓の歴史や、変化してきた自然の様子、町や生活の移り変わりなどを分かりやすくまとめたDVD(約30分)を、地元の学校に紹介し、授業などで活用してもらうことを目的としました。また、NPOのニュースレター内『サロベツ原野だより』コラムでも、新たなインタビューを取りまとめ、昔話として紹介しました。

DVDは豊富高校・豊富中学校・豊富小学校・兜沼小中学校・稚咲内小学校の5校に、NPOの職員が直接各学校を訪問し、PR用のチラシで説明したり、先生方にDVDを見ていただきながら配布しました。

ニュースレターは、『サロベツ人の横顔』『サロベツ今昔物語』というテーマで掲載し、読まれた会員の方からは好評のコラムとなりました。また執筆者本人もやりがいを感じている様子なので今後も継続していきたいです。

Data

～教育現場への普及～

日 時：4月 場 所：豊富町内各学校

～ニュースレターでの紹介～

日 時：4月、11月 場 所：北海道内外

Project No. 6

サロベツ人気UP作戦
何もないと言わせないぞ
サロベツ観察会

オバパワー倶楽部

見つけた！
小さな宝物。

サロベツが大好きな人、サロベツをもっと知りたい人、サロベツを通りかかった人など…、来る人は誰でもOK！

草花、昆虫、鳥をみんなで探して調べる自然観察会を行いました。

湿原の生物は小さくて目立たないものが多いけれど、じっくり探せばこんなに沢山おもしろいものがあるぞ！何もないと言わせない！

湿原の自然観察の醍醐味を熟練した原野の案内人2人がご紹介しました。

ショウジョウバカマの芽、ワタスゲ、ガンコウランなどの小さな花を確認。本格的な、花のシーズン前の確認観察会となりました。

Data

日 時：4月25日（土）
場 所：サロベツ原生花園
参加者：8名

ルーペでていねいに
観察する参加者

遠くに春の利尻富士

顔をのぞかせる
ワタスゲの花

雄大な姿は 豊かな自然の証。



3月下旬から4月上旬にかけて、道内各地で越冬していたワシたちが、宗谷岬からサハリン方面に向かって渡りをします。

サロベツ原野はワシたちの越冬場所になっています。観察会を通じて、参加者の方達に実際にこれらの野鳥の生態を観察してもらうことで、サロベツ原野を含む道北地方の自然環境への理解を深めてもらおうと考えました。

長年オオワシを見続けている野鳥の会の方から写真を見せてもらったり、話を聞いたりすることで、サロベツ原野を含む宗谷地方には、非常に豊かな自然が残っている、ということに参加者に知ってもらうことができました。

Data

日 時：4月5日（日）
場 所：宗谷岬
参加者：22名

Project No. 7

サハリンの風に乗れ！ ワシの渡り観察会

稚内自然保護官事務所
日本野鳥の会道北支部



観察する参加者

美しいオジロワシ

飛来する
ワシタカ類の群

生き物の本当の美しさ 想像してみてください。



北海道の野生動物の創作折り紙シリーズを制作したいという想いがあり、数年前から創作活動をしています。現在までにエゾシカ（雄雌）、シマフクロウ（折り方2種類）、イワナ、ヒグマを制作してきました。

仕事でサロベツ近郊に赴任したことがきっかけで、サロベツ原野に生息する動物もシリーズに加えていきたいと思い、近年サロベツ原野を訪れるようになったタンチョウを制作、エコモー・プロジェクトに登録しました。

これらの折り紙は風景画、あるいは風景写真と合わせてジオラマ風に展示しています。リアルになるように工夫した創作折り紙と、添えられた生態解説、そして実際に折り紙を折ってもらうことを通して、生き物を観察する楽しさや自然の大切さを見に来てくれる方々に伝えたいと考えています。

来年はもっと沢山のサロベツの動物をモチーフに折り紙を創作し、動物折り紙博物館を充実させていきたいと思っています。

Data

日 時：年間を通して随時
場 所：サロベツ原生花園
豊富町民センター

子ども達も挑戦

どの角度からでも
精巧なエゾシカ

タンチョウの求愛



Project No. 8

サロベツ動物 折り紙博物館

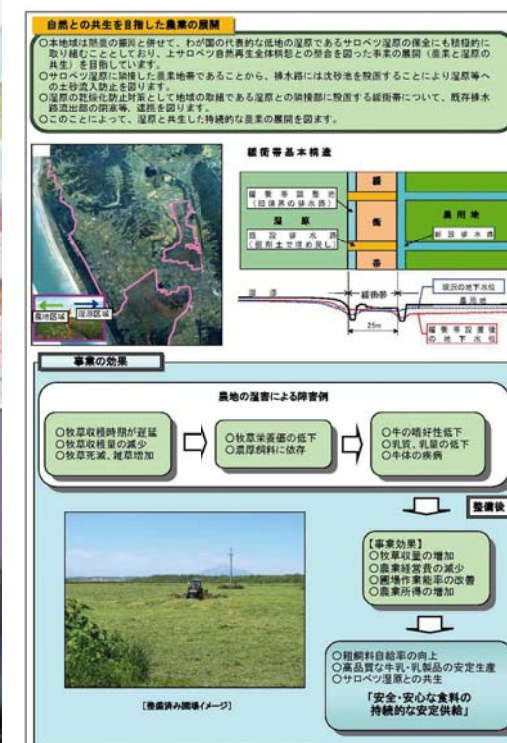
かせいじん

上サロベツの湿原と共生する 豊富の農業を学ぶ。

Project No.9

上サロベツの自然と 農業を学ぶパネル展

稚内開発建設部、豊富町



上サロベツ地域は、夏でも冷涼な気象のため、明治時代から畜産を主体とした農業を推進してきましたが、戦後には泥炭地帯の開拓にも着手し、現在は我が国を代表するような大型酪農地帯になっています。

上サロベツの農業は、農業地帯と隣接して、国内有数の規模を誇るサロベツ原野があり、「湿原との共生」に努めながら農業活動を行っています。

本パネル展は、サロベツの湿原と共生する地域農業の魅力を紹介するために、豊富ビジターセンターや地元施設で行い、地域農業の概要、湿原との共生に配慮した取り組み、豊富牛乳を使ったチーズ・アイスクリーム・プリン等の製造・販売工房、体験農場等をパネルにして展示し、訪れた観光客等に好評を得ています。

今後も、上サロベツの自然と農業及び地域活動等を発信し、地域への理解と魅力を高めるために、継続的な取り組みが必要と考えています。

Data

日時：6月10日～10月31日 豊富ビジターセンター
場所：7月24日～8月17日 豊富町自然公園グリーンハウス
10月24日～10月25日 豊富町民センター

パネルに見入る
地元の方

展示されたパネル

Project No. 10

上サロベツ 農業情報マップ

稚内開発建設部、豊富町



上サロベツの自然に抱かれた豊富町には、大規模な酪農家が存在し、美味しい「豊富牛乳」を生産しています。町内には、新鮮な牛乳等を使って飲用乳・アイスクリーム・チーズ・プリン等を製造・販売する工房と、子牛との触れ合いや哺乳・乳搾り・イチゴ狩り等を体験できる農場があり、また、バター・アイスクリーム・ソーセイジづくり等を体験できる場所もあります。また、町の景観は、広大なサロベツ湿原、利尻山を望む農村地帯、牛が群れる大規模草地など多様であり、訪れる人々を魅了しています。これらの情報を載せた「上サロベツ農業情報マップ」は、役場・町民センター・観光情報センター・ビジターセンター等の公共施設と情報提供を頂いた団体等に置き、平成 22 年 1 月までの 9 カ月間に 2,700 枚配布し、来町者等からは好評を得ています。

今後も上サロベツ地域の農業や活動状況等の情報発信に努めて地域の魅力を高めるため、継続的な取り組みが必要と考えています。

Data

日 時：4 月 30 日から通年
場 所：豊富町内の 18 ヲ所
配布数：2,670 部

マップ裏面 マップ表面

サロベツを知ること 出会い、語ること。



サロベツ学会は、「サロベツ」にかかわる様々なことから、苦労話や、新しい発見や、未来像など、なんでも自由に意見を交換・発信し、地域の活性化に寄与することを目的として、平成 20 年 11 月に発足いたしました。

その活動の一環として、5 月 24 日の総会開催と同時に、平成 18 年度から 3 年間にわたって、環境省の技術開発費でサロベツの地で調査研究を続けてこられた北大植物園の富士田裕子先生とその研究仲間の皆様にお願ひし、研究の成果を地元の人々に分かりやすく説明していただく談話会を開催しました。

また 7 月には「サロベツ湿原の環境保全ー現状と広域的視点ー」をテーマに第 9 回湿原ワークショップを開催し、ここでも専門分野からの話題提供と討論が行われました。

Data

日 時： 5 月 24 日 豊富町共同福祉センター
場 所： 7 月 4 日 豊富町民センター
参加者： 各 50 名

歩きながら語る
会員達

学会の設立

研究発表

Project No. 11

サロベツに集まり 自由に語り合いましょう

サロベツ学会



“気づく” 楽しみ。 それを共有できる喜び。



豊富ビジターセンターにおいて、サロベツ原野の草花の自然観察及び湿原の自然史などの解説を行う観察会を実施しました。講師は環境省のパークボランティアが担当しました。

参加者は原生花園木道周辺で見られる植物の名前や特徴についてパークボランティアから解説を受けながら、1時間ほど散策を行いました。

観光客の飛び入り参加もあり、自身の居住地では見られないサロベツの草花について熱心に学んでいました。

観察会後アンケートをとったところ、ひとりで歩いていては気づくことのできない小さな草花や、一見何気なく見える植物のおもしろさを知ることができ非常に満足しているという回答がほとんどの参加者から寄せられました。

Project No. 12

サロベツ・プチ 自然観察会

稚内自然保護官事務所



Data

日 時：7月18日（土）
場 所：サロベツ原生花園
参加者：9名

ひとつひとつに
詳しい解説

遊歩道から見る
広大な原生花園

クロバナロウゲ
のつぼみ

知って下さい。 崩壊は一瞬だということ。



この観察会は、海岸砂丘への車両乗り入れの実態を一般の方にも知ってもらおうという目的で毎年開かれています。

稚内市坂の下はサロベツ原野の海岸沿いの北端に位置します。海岸砂丘帯は長い年月に渡り、波や風の影響を受けて形成されてきました。砂丘は表面に植物が根をおろすことによって固定され、茂みや砂丘林が育ち、多くの生き物の棲み家となってきました。しかし、近年RV車など車両乗り入れによって植生が荒廃し、砂丘帯が削れ崩壊しているところが見られます。今回は砂丘帯の生き物について解説を受けたり、砂丘帯崩壊の現場や漂着ゴミを見たりしながら散策を行いました。散策途中では希少なエゾタンポポを確認することができました。参加者からは坂の下の自然を多くの人に知ってもらい、残してゆきたい、ゴミ拾いを実施できないか、などの感想が寄せられました。

Data

日 時：5月31日（日）
場 所：稚内市坂の下（国立公園第2種特別地域）
参加者：18名

Project No. 13 坂の下自然観察会

稚内自然保護官事務所



漂着ゴミを
チェック

砂丘帯の沼地で
鳥類を観察

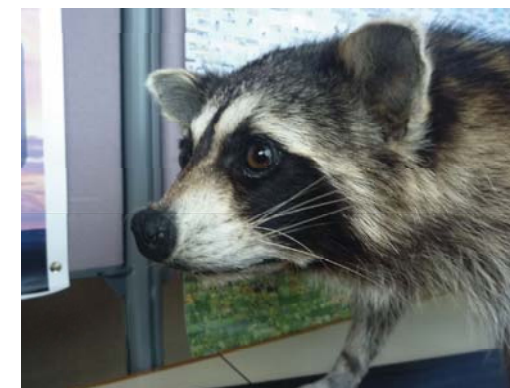
希少な
エゾタンポポ

まずは、知ることが 第一歩です。

Project No. 14

外来種ってなんだろう？ ～サロベツ自然語講座& 宗谷支庁外来種防除研修会～

NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク
宗谷支庁環境生活課
環境省稚内自然保護官事務所



近年、宗谷地方でも在来の生態系に大きな悪影響を及ぼすことが懸念されるセイヨウオオマルハナバチ、オオハンゴンソウ、アライグマなどの特定外来生物が分布を拡大していることから、外来生物問題についての講習会を開催しました。

普段何気なく見ている草花や生物にも多くの外来生物が含まれており、外来生物問題が身近にありうることを知ってもらうことができました。

間違われやすい外来種と在来種についての特徴をしっかりと覚えてもらうことができ、一般の人たちが参加しやすいセイヨウオオマルハナバチの駆除についても、このハチが好んで訪れる庭先の花や効率的な駆除方法、装備について具体的に説明することができました。

Data

日 時：6月13日（土）

場 所：豊富町自然公園 グリーンハウス内

参加者：15名

道路沿いで見られる
オオハンゴンソウ

近年増加が確認される
アライグマの剥製

会場の様子

Project No. 15

サロベツ
サブレンジャー

北海道大学植物同好会

フィールドが
何よりの先生。

北海道大学植物同好会は毎夏環境省と豊富町の支援を受け、サブレンジャーとして豊富ビジターセンターを中心に活動しています。

本年も観光客に対する自然ガイドや、センター内の展示物の作成などを行い、サロベツ原野の魅力や現状を分かりやすく伝えられるよう努力しました。特に今回は、サロベツを舞台に行われている学術研究を説明する展示を作成し、改めてサロベツの歴史や、自然の固有さを知ることができました。また、大学生が、地元の方々と交流することで、互いに刺激的な日々を過ごせたと思います。

今後は観光客の方にサロベツの魅力を感じリピーターとなってもらうことに加え、地元の方にもサロベツの意外な一面を知ってもらい、その魅力を再認識してもらうことを目標に活動していきたいと考えています。

Data

日時：8月4日～8月24日頃
場所：サロベツ原生花園
参加者：12名（北大生9名、豊富高校生3名）

手書きでマップを
制作中

フィールドガイド
が貴重な経験

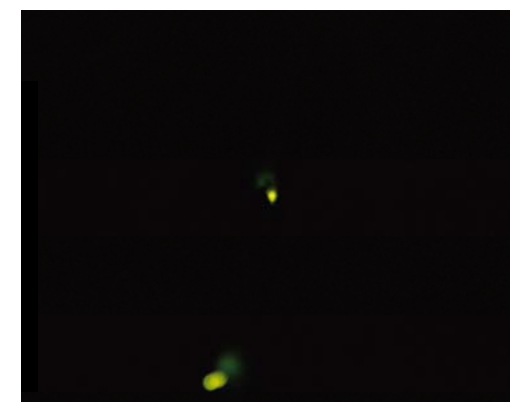
わかりやすく楽しい
フィールド情報マップ

夜にしか出逢えない光。

Project No. 16

木道ナイトハイク

稚内自然保護官事務所



パンケ沼園地木道・小沼周辺で夕刻に鳴く鳥類やヘイケボタル、星空の観察を行いました。

観察会では、エゾセンニュウやマキノセンニュウ、カッコウなどの鳥類の鳴き声や、北斗七星、白鳥座などの星座を楽しむことができました。

また、冷夏で羽化が遅れていたものの、ヘイケボタル3匹を確認することができたのは貴重な経験でした。

近所の農家の人たちの参加もあり、「こんなに近くに住んでいたけれどホタルが生息しているなんて知らなかった。また様子を見守りに来たい。」といった感想が寄せられ、身近に豊かな自然環境を有する場所があるということ、普段何気なく生活している人たちに実感してもらうよい機会になったと思います。

Data

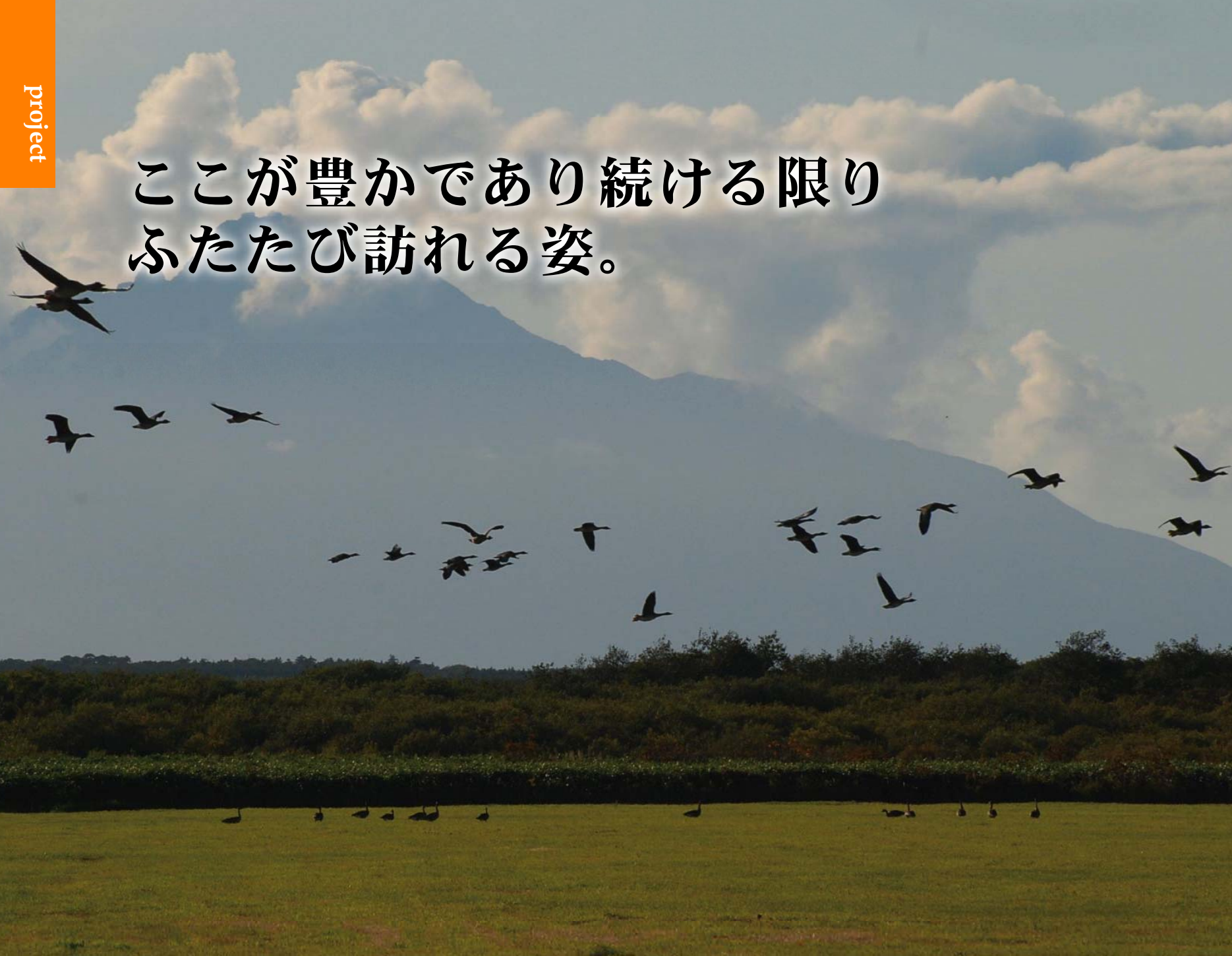
日時：7月17日（金）

場所：幌延町下沼パンケ沼園地

参加者：21名

飛ぶ
ヘイケボタル
夕暮れのパンケ沼
暗がりを歩く
参加者

ここが豊かであり続ける限り ふたたび訪れる姿。



サロベツ原野がラムサール条約登録湿地となった大きな理由のひとつは、オオヒシクイが渡りの中継地としてサロベツ原野を利用しているということです。オオヒシクイの名やサロベツがラムサール登録湿地であるということは地元の人にも意外と知られていません。

この観察会は渡り鳥とサロベツの関わりを少しでも多くの人たちに知っていただこうと、野鳥の会と共催で毎年開催しています。

参加したみなさんにはオオヒシクイが何千羽もの群れをなして牧草地で採餌、休息している様子を観察してもらうことができました。

観察会の最中には、渡り鳥に関するクイズや実物大で実物の重さのオオヒシクイのぬいぐるみ、オオヒシクイの好むヒシの実などを用いて、オオヒシクイについての知見を深めてもらうこともできました。

Data

日 時：9月27日（日）

場 所：幌延町下沼の牧草地帯

参加者：25名

Project No. 17 秋の渡り鳥観察会

稚内自然保護官事務所
日本野鳥の会道北支部



望遠鏡で観察

オオヒシクイの群

大勢集まった
参加者

時の記憶と鳥の目が見せる風景。

サロベツ湿原の大判写真を床に展示し、その上にカメラで撮影した古い写真を立てて展示し、新ビジターセンター予定地やサロベツ湿原のみどころ、変遷などをパンフレットなどを活用しながら説明しました。

来場者の方からは、撮影の場所やサロベツ湿原の昔話をお聞きすることができました。

また、サロベツ湿原の上空を自由に飛べるソフトを展示し、来場者に操作していただきました。

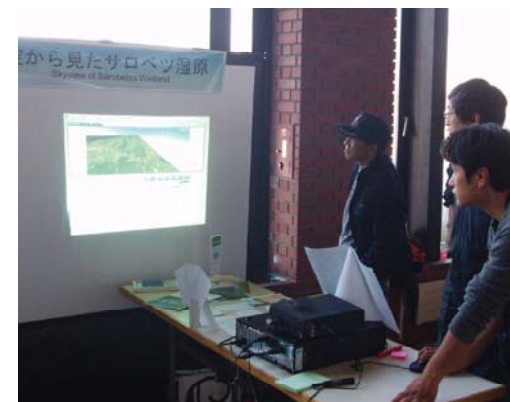
来場者の方たちは、泥炭採掘跡地やペンケ沼、兜沼など過去の生活に密着していたところに特に興味を持たれたようでした。

Data

日時：10月24日（土）25日（日）
場所：豊富町民センター

Project No. 18 空から眺める サロベツの自然

NPO 法人 EnVision 環境保全事務所



3Dソフトを体験

空中写真と過去の
写真を見比べる

ルーペでじっくり
観察

サロベツの活動情報マップ

00 数字は活動番号
※場所の特定できる活動のみ記載しています



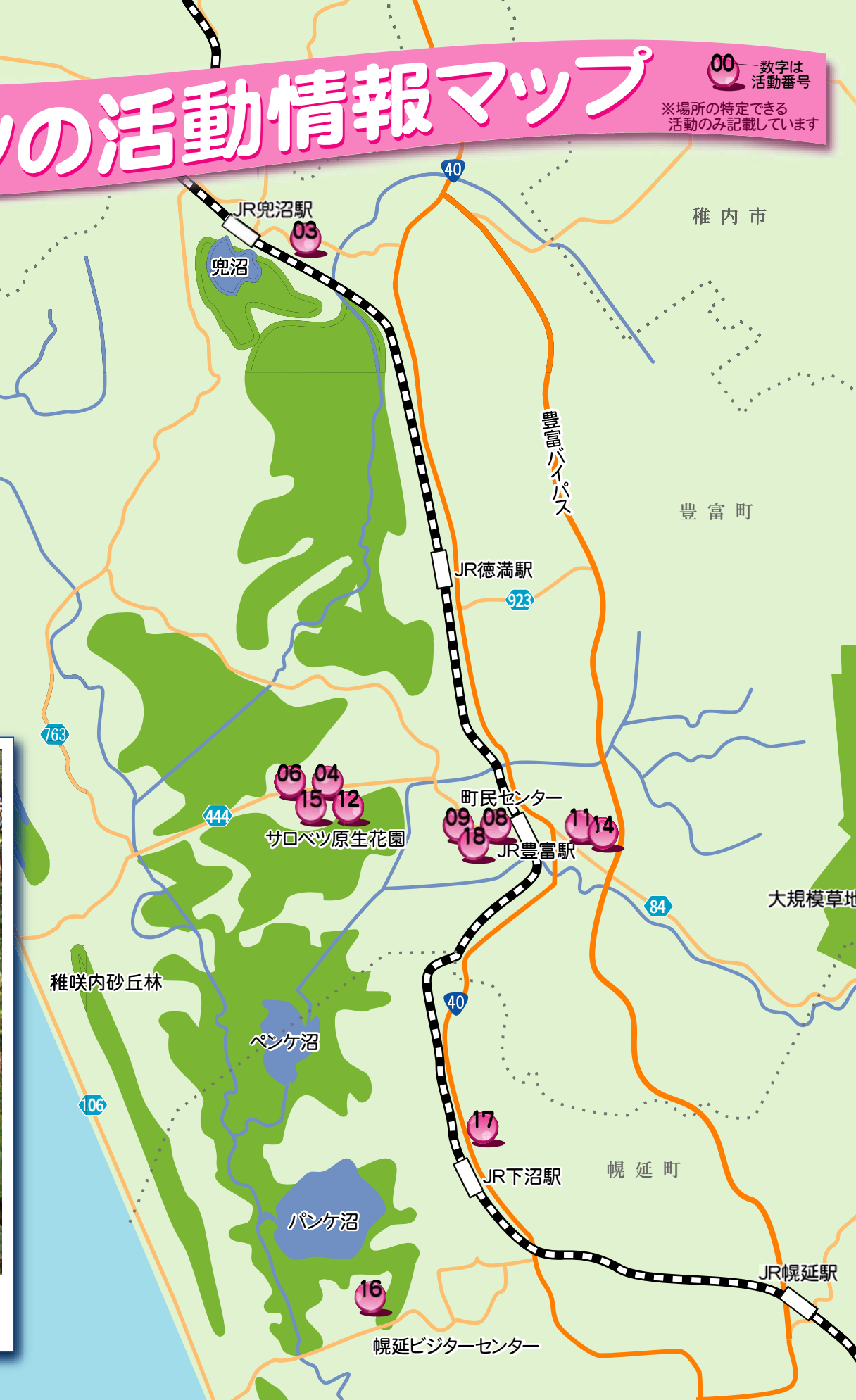
兜沼
豊富町発祥（明治36年）の地。
沼の周囲に自然を楽しむ公園やキャンプ場が整備されています。



サロベツ原生花園
サロベツ湿原の自然や歴史をビデオやパネルで紹介しています。2階からは湿原が一望できます。

稚咲内海岸砂丘林

日本海沿いに南北20kmに渡って連なる砂丘林。
100以上の湖沼を含み多様な動植物が生息しています。



サロベツ原生花園
サロベツ湿原の自然や歴史をビデオやパネルで紹介しています。2階からは湿原が一望できます。



幌延ビジターセンター
沼が間近にあるため、水鳥と植物の観察ができます。木道はパンケ沼まで続きます。

■ 上サロベツ自然再生協議会運営事務局

NP0 法人サロベツ・エコ・ネットワーク
 豊 富 町
 環境省北海道地方環境事務所
 北海道開発局稚内開発建設部
 北海道宗谷支庁稚内土木現業所

サロベツの魅力みつけた。 サロベツ・エコモー・プロジェクト 2009 活動報告集

2010 年 3 月 第一刷発行

■ 発 行

上サロベツ自然再生協議会運営事務局内
 NP0 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

〒098-4124
 北海道天塩郡豊富町字豊富東4条3丁目
 (共同福祉施設内)
 TEL●0162-82-3950 FAX●0162-82-3951
 e-mail●info@sarobetsu.or.jp
<http://www.sarobetsu.or.jp/>